



2022年9月30日

マッコーリー・キャピタル・セキュリティーズ・ジャパン・リミテッド（東京支店）

顧客本位の業務運営に関する方針

マッコーリーは総合金融グループであり、デット、株式、コモディティ等様々な分野に亘り、資産運用、バンキング、アドバイザー、リスク及び資本に関するソリューションをお客様に提供しています。

日本におけるマッコーリーでは、マッコーリー・キャピタル・セキュリティーズ・ジャパン・リミテッド（東京支店）及びマッコーリーアセットマネジメント株式会社を通じ、企業、政府及び機関投資家向けにサービスを提供しています。これらのサービスには、アドバイザー、現物株及びリサーチ、株式派生商品及びストラクチャード・プロダクト、資産運用サービス、債券、通貨、コモディティ取引等が含まれます。

マッコーリーはお客様、株主、そして社員の利益となる機会を実現することを目指しています。マッコーリーの**根本原理**は、「**機会を実現する**」、「**責任を果たす**」、「**誠実を貫く**」、という長年にわたり堅持されてきた3つの原則から成り、マッコーリーがどのようにビジネスを行い、お客様と関わっていくかについての指針となっています。

機会を実現する

マッコーリーはお客様のために機会を見出し、実現することを目指します。

マッコーリーはお客様との関係を構築していく上でこの原則を守るため、以下を徹底します。

- マッコーリーの専門性を活かし、お客様にとって真に重要であると考えられる機会を発掘する
- 時代を超える卓越した価値及びサービスを提供する
- 多岐に亘るサービスと商品をお客様に提供する

責任を果たす

マッコーリーは、お客様に対し常に責任ある行動を取るよう努めます。マッコーリーはお客様との関係を構築していく上でこの原則を守るため、以下を徹底します。

- お客様にコミットし、最良の成果を達成するために尽力する



- お客様に最適かつ最良のアドバイスを提供する
- お客様の情報を自己の情報と同様に厳重に管理する

誠実を貫く

マッコーリーの社員は、常に誠実かつ公正に行動し、約束を守ります。

マッコーリーはお客様との関係を構築していく上でこの原則を守るため、以下を徹底します。

- 高度な倫理規範を維持することにより顧客の信頼を得る
- コミットメントの精神を尊重する
- 誠実かつ公正な行動を取り、マッコーリーの役割の性格を常に開示する

マッコーリーの[行動規範](#)（以下、「行動規範」）には、社員の行動と態度の規準が明記されています。

特にお客様との関係において、堅固なリスクカルチャーと適切な行動を支援することを目的として、行動規範には、社員の行動と質の高い意思決定のための実践的な手引が盛り込まれています。

当社が顧客本位の業務運営の維持と強化をどのように進めていくかについては、既に、その基礎となる要素が、マッコーリーの行動規範と規程及び手続に含まれています。

コンダクトリスク管理

マッコーリーでは、コンダクトリスク（不適切な行動等をもたらすリスク）を「不適切、違法、非倫理的な行動が、マッコーリーの顧客やカウンター・パーティー、あるいはマッコーリーが事業を展開する市場の公正かつ効果的な運営にネガティブな影響をもたらすリスク」と定義しています。新規商品の承認やリスク・アセスメントなど、マッコーリーのリスク管理の中核となるプロセスにおいて、このコンダクトリスク管理の視点を取り入れています。これには、お客様のために適切かつ公平な結果を確保することも含まれます。

質の高い意思決定の手引

マッコーリーは、より複雑な意思決定を行うための手引として以下の重要な確認事項を取入れた枠組を構築しています。

ステークホルダー - 誰が影響を受けるか？

- 自分の意思決定が誰に影響を及ぼすのか？（クライアント、お客様、株主、地域社会、取引先、同僚、チーム、家族、友人など）



- どのような事実あるいは仮定に基づき意思決定を行っているか？

マッコーリーの社員は、全てのステークホルダーに与える影響を考慮しつつ、意思決定を行います。

誠実を貫く - 正しいことをしているか？

- 自分の言行は一致しているか？偽りはないか？公正か？自分を相手の立場に置き換えたとき、どのように感じるか？
- 法令及び内部規程を遵守しているか？たとえ違反がないとしても、やっていいことか？

マッコーリーの社員は、自分の意思決定がマッコーリーの根本原理に則っているかどうかを考慮します。

長期的視点 - 自分の意思決定は将来に亘って正当化できるものか？

- 自分の行動への責任が公にされたらどのように感じるか？このことが新聞の一面に掲載されたとしても不安はないか？
- 自身の意思決定は正しかったと、誇らしく振り返ることができるか？

マッコーリーの社員は、短期的な利益に対して、ビジネスへの長期的な影響、自己の評判、及び自己の関わる人たちからの信頼を合わせ、慎重に比較した上で行動します。

当社は本書面をもちまして、日本における当社の事業に関連する範囲で、金融庁により提言された「顧客本位の業務運営に関する原則」を採択することを確認します。これは、マッコーリーの原則及び行動規範に沿うものです。金融事業者である当社は、今後も顧客本位の業務運営の維持と強化に努めて参ります。【原則1】



1. 顧客の最善の利益の追求【原則 2】

マッコーリーには、お客様及び取引先への公正な対応に努める基本的な原則があります。マッコーリーは虚偽行為、ごまかし、隠蔽、機密情報の乱用、重要事項の虚偽表示その他の不正取引によって、他者から不当な利益を得ることがないように努力します。

2. 利益相反の適切な管理【原則 3】

マッコーリーは、マッコーリーがリスクを管理し、お客様、取引先又はマッコーリーが参加する市場の公正かつ効果的な運営にネガティブな影響を及ぼす可能性を抑制することを目的として、利益相反の特定及び管理を行う枠組みを定めています。

この枠組みには、利益相反の有無の確認、情報開示、情報隔壁、個人投資取引、業務外のビジネス活動の申告などに関する諸規程、手続及び統制手段が含まれます。

利益相反管理方針の概要につきましては以下をご参照下さい。

[利益相反管理方針（概要）](#)

3. 手数料等の明確化【原則 4】

マッコーリーはビジネスを行う際に、お客様及び取引先に公正に対応することを基本的な原則としています。これには、透明性の確保及びお客様へのすべての手数料その他のコストの開示が含まれます。

4. 重要な情報の分かりやすい提供【原則 5】

マッコーリーはビジネスを行う際に、お客様及び取引先に公正に対応することを基本的な原則としています。マッコーリーはお客様とのコミュニケーションにおいて、お客様にわかりやすい方法で、かつ以下を徹底することに努めます。

- 公平さ、正確さ、品位を保つ
- 裏付けのない情報又は虚偽であるとわかっている情報の発信源とならず、またそのような情報を参照しない
- 潜在的な機会・利益及びリスクの両方について、バランスよく公平に提示する
- 保証せず、誇張せず、また根拠がない、紛らわしい、曖昧な、あるいは不合理な主張を控える



- 誇張や誤りと同様に誤解を招く恐れのある、重要な事実の省略を行わない
- 機密情報を開示しない

5. 顧客にふさわしいサービスの提供【原則6】

マッコーリーにおいて、商品の企画、組成、販売を担当する部門は、最終投資家にふさわしい結果をもたらすことにコミットしています。従って、マッコーリーの社員には以下が求められます。

- 商品の販売対象として想定する市場セグメントの目的に合致する商品を企画・組成することで、商品の適合性の確度を高める
- 商品の販売が、当該商品の販売に相応しい販売会社により、適切な方法で行われていることを確認する

勧誘方針につきましては以下をご参照下さい。

勧誘方針

6. 従業員に対する適切な動機づけの枠組み等【原則7】

マッコーリーの報酬の枠組みは、長期的視点でリスクリターン意思決定を行うことを奨励します。マッコーリーの従業員は業績管理プロセスの一貫としてリスク及びコンダクト（適切な行動）に関する目標を立てることが義務付けられており、これらは報酬及び昇格の意思決定に際し考慮されます。マッコーリーの従業員の行動は監視されており、従業員の行動が行動規範に記載された要件を満たしていない場合は、相応の対策が講じられます。

マッコーリーのコンダクトリスク（不適切な行動等をもたらすリスク）管理の枠組みにおいては、お客様の利益や、主要なリスク管理プロセス及び意思決定における結果が考慮されます。マッコーリーでは、従業員がお客様の利益及び成果をより重視することを目的とした研修及び教育制度が整備されています。

以上